

<公開用>

平成 30 年度 第 1 回 大山崎町留守家庭児童会育成事業 (放課後児童クラブ) 運営協議会 会議録

日 時 : 平成 31 年 1 月 28 日 (月) 午後 7 時～9 時

会 場 : 大山崎町役場 3 階中会議室

出席委員 : 石田委員、森 (一) 委員、壺内委員、野田委員、田中委員、
辻野委員、西村委員、越智委員、森 (か) 委員、辻委員

町 教 委 : 中條教育長

<以下、事務局>

堀井生涯学習課長 (事務局長)、上田生涯学習・スポーツ振興係 Ld、
内藤同係主任、阿部指導員

傍 聴 者 : 2 名

次 第 :

1. 教育長挨拶
2. 委員の委嘱
3. 各委員の紹介
4. 会長・副会長の選出
5. 会議の運営について
6. 資料説明
7. 留守家庭児童会事業 (放課後児童クラブ) の目的の説明
8. 協議事項の説明
9. 保育現場の報告
10. 意見交換

会議録 :

<開会 ～ 教育長挨拶 ～ 委員委嘱 ～ 委員紹介 ～ 事務局紹介>

※省略

<出席委員数確認>

※10 名中 10 名の委員出席につき、会議の成立を確認

<会長・副会長の選出>

※石田委員を会長に、森 (一) 委員を副会長に選出

<会長・副会長の挨拶>

○会長

普段は保育士や幼稚園教諭、小学校教諭の養成にあたっている。この経験

<公開用>

を活かして、協議会の進行に協力させていただきたい。皆さんにも協力を
よろしくお願ひしたい。

○副会長

本町の社会教育委員長を仰せつかっている。長く中学校で勤務し、最後
の4年は小学校に勤めた。その時に、学童（放課後児童クラブ）のようす
を知ることができた。この会議において、子どもたちのより健全な発達の
一助になれたらと思う。

<会議の運営について>

※会議の公開、傍聴者の入室について、委員全員挙手により承認

※会議録の取扱い方法について、委員全員挙手により事務局案を承認

<傍聴者入室>

※傍聴者2名が入室

<資料説明>

※事務局から配付資料1～17の説明

<事業目的の説明>

※事務局から資料に沿って説明

<協議事項の説明>

※事務局から資料に沿って説明

<保育現場の説明>

※事務局から資料に沿って説明

<意見交換>

○会長

委員の皆様におかれては、放課後児童クラブについていろいろな思いや課
題を感じておられるかもしれないが、今回の運営協議会の協議事項は、
「5・6年生受け入れ拡大にあたっての課題」についてであるので、よろ
しくお願ひしたい。

事務局に確認するが、全3回の開催予定とあるが、この協議会の場で何か
を決定する、意見書を取りまとめる、ということではなく、この協議会の
場が出た意見を今後町が取りまとめて、今後の検討にあたって活用する
ということが良いか。

<公開用>

○事務局長

その通りである。

○会長

全3回の流れはどのようなイメージか？

○事務局長

1回目は説明が大半を占める中で、残る時間で質疑を。2、3回目で意見交換、質疑を想定している。

○会長

今のことを踏まえ、意見交換を。資料についての質疑でも。

○委員

今、1年生～4年生を対象にしているとのことだが、ここに5、6年生が加わると大きく変わるのでは。5、6年生は4年生以下と比べて知識や経験が大きく違い、随分大人びている。現場で4年生以下と、5年生以上の違いを感じる如果能够あれば教えてほしい。

○事務局長

4年生以下と、5年生以上の違い、これを今回の協議会のテーマとしている。現状、保育現場に5年生以上がいないため、保育現場での5、6年生のようすは想像によるしかないが、心身ともに発達状態に大きな差があり、1～4年生と一緒に一体的な集団で保育すべきか、別々の集団で保育すべきか議論があるところ。資料中のさまざまなデータを基に、委員の皆さんには保育集団のあり方や保育の内容についてご意見をいただき、それを参考に今後の検討を進めていきたい。

○委員

私自身、子ども時代はでっかいクラブに6年生まで通っていた。当時、町は5、6年生の保育の必要性を認め、「ジュニアティーチャーズクラブ」として5、6年生の保育が存在していたが、その後、これを打ち切ってきたという経緯がある。こういった背景を押さえたうえで検討を進める必要があると思う。

当時のこの経緯について、詳しく分かれば教えてもらいたい。

○会長

今すぐには難しいということであれば、2回目までに調べてきてほしい。

○事務局長

第2回協議会の場で説明させていただく。

○委員

雲をつかむような印象。的を得た意見が出せるかどうか。実際に5、6年生を受け入れている近隣市町の状況を研究するのが近道では。以前に一度5、6年生の受け入れを廃止した時の理由などをしっかり精査し、同じ反省を繰

<公開用>

り返さないように。

○会長

近隣市町の5, 6年生受け入れ状況にかかる資料は、電話やHPで調べたものか、実際に見学等してまとめたものか。

○事務局

多くの自治体には電話で聞き取り、一部自治体には実際に見学をさせていただいた。

○会長

各市町、施設は数カ所ある。5, 6年生の受け入れ人数は、1箇所当たりで見るとごく少ない人数なのか。

○事務局

各市町に、施設ごとの在籍人数までは聞き取っていないが、その通りであると思われる。

○会長

現場を見られたのはどの市町か。

○事務局

向日市の現場を見学させていただいた。ちなみに、5, 6年生と他学年の体格の違い等に起因する事故や怪我、不具合はないと聞いている。

○会長

この資料に記載のある市町はすべて5, 6年生も一体的に受け入れているのか。

○事務局

その通りである。

○会長

可能であれば、第2回までに5, 6年生を分けて保育している自治体の状況も聞き取って資料提供いただきたい。

○委員

町内で、5, 6年生、中学生、高校生を受け入れているチャレンジクラブという学童保育が存在するので、そこの方に来ていただいて活動内容等をお話しただけでないか。

○会長

町内にそういう取り組みがあるのであれば、是非よろしくお願ひしたい。

気になるのは、5, 6年生を分けて保育することとしたものの、実際に人数がとても少ないといった場合など、人数の問題がある。町内・外限らず、事例があれば紹介してほしい。

○委員

現状の1～4年の保育の中身、スケジュールについて先ほど事務局から説明

<公開用>

があったが、その他、どのような取り組みがあるのか。

○事務局

本町の学童の特徴として、毎年2～4年生が1年生を指導しながら、全員が一輪車に取り組む。また、冬の時期にはコマ回しのさまざまな技の習得を通じた異年齢集団の関係づくりなどに取り組んでいる。

○委員

5, 6年生を受け入れることとなった場合、高齢者でも保育指導に協力できる部分があるかもしれない。民生委員の中にもさまざまな特技を持った方がいるので活用していただければどうか。5, 6年生は発達が進んでおり、随分大人びた子もいると思うので、協力できる部分もあると思う。

○委員

資料98ページの施設概要で指導員数が書かれているが、各クラブで児童数に対する指導員数のバランスがまちまちであるように思う。例えばでっかいクラブでは2つの支援単位それぞれ児童70名に対して指導員各2人で、体制的に余裕がない中で、さらに5, 6年生を受け入れるのか。もしくは指導員を増やすようなことも考えているのか。

○事務局

資料98ページの受入児童数は、基準条例上の1人当たりの面積基準（1.65㎡/人）を基に施設の広さから受け入れ可能な人数を表記しているもの。でっかいクラブで言えば、実際には2つの支援単位を合わせて70～80名という在籍状況に対し、施設的には全体で140名程度の受け入れキャパとなっており、今後5, 6年生の受け入れ拡大のみならず、宅地開発等に伴う入所児童数の増加にも対応できる施設環境となっている。

一方、指導員については、各支援単位に2名、町全体で10名の嘱託職員の配置に加え、支援を要するお子さんの加配にあたる臨時指導員等、必要に見合った数を配置して保育にあたっている。

○副会長

両小学校の各学年の在籍児童数が分かればご教示いただきたい。

○委員

大山崎小学校については1年生110名、2年生91名、3年生103名、4年生109名、5年生102名、6年生119名である。

○事務局

第二大山崎小学校の数は今手元に資料がありません。

○副会長

全児童に占める、学童在籍児童の割合を知りたかったのでお聞きした。アンケートで、資料102ページの間<1><2>は3～6年生に聞いているのか。

<公開用>

○事務局

対象は現在籍児童なので、3，4年生を対象に回答いただいた。

○副会長

資料103ページの入所数予想について。①は厚労省のデータを基に予測しているようだが、全国的なデータなのであまり参考にならないのでは。②は町のアンケートに基づくので実際の希望数に近い数が出ているかと思うが、子どもは「行きたくない」という中、親の考えで学童に通うという子どももいるかと思う。私のいた学校では、高学年になると「行きたくない」という子どもが多かった。

行きたくないけれど通っている子と、行きたくて通っている子がいる中、1～6年まで全学年が一緒になると、はたしてどのような難しさがあるのか。現場の方の意見を聞くことが大切。

保護者向けアンケートについては、3，4年生の保護者が対象だったのか。

○事務局

保護者向けには、1～4年生の全在籍児童の保護者を対象とし、児童向けには、1，2年生は明確な意思をもって将来の希望を述べるのは難しいかと考え、3，4年生を対象とした。

○会長

アンケートに基づく入所数予測をそのまま受け入れることとなった場合、今の建物で受け入れ可能なのか。

○事務局

でっかいクラブに関しては施設の広さは十分ある状況。なかよしクラブ、ともだちクラブに関してはこのままでは難しい状況が出てくるかもしれない。ただ、入所数予測に関しては、アンケート結果では相当高い割合となっているものの、国の統計、近隣市町の状況は、いずれもやはり相当低い。実際の5，6年生の入所数が予想の範囲の中で高い方と出るのか、低い方と出るのか、また現1～4年生の在籍児童数が今後どう推移するのかにもよる。

○事務局長

第二大山崎小学校の学年別の在籍児童数を報告します。1年生34名、2年生37名、3年生35名、4年生37名、5年生39名、6年生52名です。

○委員

長岡京市の学童在籍児童の保護者から聞く話だが、5，6年生になると体の発達に心の発達が追い付かず不安定となり、低学年への暴力があると聞く。そういった面でのケアも大切と思う。

○事務局長

現状、指導員は子どもたち同士の関係にも十分見守り、ケアをしていることに加え、全クラブを巡視する統括的な職員を配置しフォローしている。

<公開用>

○委員

おやつの時間に良かったことや嬉しかったことをみんなで考える、との説明があったが、そういう取り組みはとても良いと思う。

○委員

アンケートを実施されているが、5、6年生は別の保育集団としてほしいのか、一緒の保育集団としてほしいのかを聞いていれば参考になったのでは。

○会長

保護者会でそういった話は出ていますか。

○委員

保護者会では、町のアンケートとは別に話し合いを重ねている。「今と同じような保育活動が継続されるなら利用する」を①、「活動内容に関わらず利用する」を②、「活動内容によらず利用しない」を③、「これらのいずれでもない、自由に記述を」を④としてアンケートを実施した。①②を合わせると、やはり5～6割になる。活動内容はやはり大事と捉えている。親は行かせたいが、行きたくないという子も増えてくるであろう中、どんな活動内容が良いか教育委員会と一緒に考え、いい形ができていたら。保護者会としては、教育委員会との懇談の機会などに、この結果をお伝えしていきたい。

○委員

今のアンケートは、でっかいクラブの中だけの結果か。

○委員

全クラブで実施したもの。小学校区による地域特性もある。毎月1回の定例会で交流の場は持っているが、大山崎小学校区のことは分かりかねる部分もあるので、もしよければ次回はなかよしクラブ、ともだちクラブの保護者の方にも参考人としてご参加いただけたら。

○会長

資料93ページの運営要領第6条第4項の規定で、会長が必要と認めれば、ということですが、委員の皆さんに同意いただけるようであれば出席を求めることとしたい。

○事務局長

事務局から、各保護者会あてにご依頼させていただく。

先ほど話題に上った、現に町内で5、6年生を受け入れているチャレンジクラブの運営側の方への出席要請についてはいかがか。

○会長

あわせて、事務局から依頼をお願いします。

○会長

次回に向けて、以前町が5、6年生を受け入れていた時の保育の実態や、他市町で5、6年生を別の保育集団として保育している事例があればそういった情

<公開用>

報を収集しておいてほしい。それと、論点を明確にすればもう少し意見も出やすいと思うので、論点をまとめておいていただきたい。

<次回の日程調整>

※2月25日（月）午後7時～、場所は開催案内をもってお知らせする

<事務連絡>

○事務局長

なお、第2回協議会の冒頭では、映像で各クラブでの保育のようすを見ていただく予定だが、委員さんの中で保育現場を見学したいという希望があれば対応させていただくので、事務局まで希望日をご連絡いただきたい。

本日は遅くまでお疲れさまでした。